

当日、参加者に配布されるレジメの一部（見本）

バウハウスの理念とBMW デザイン

- **機能と形態の統合**:「形態は機能に従う(Form follows function)」という原則は、BMW デザインの根底に流れています。過剰な装飾を排し、走行性能・視認性・空力性能といった「機能」に直結する直線と曲線が造形を支配しています。
- **幾何学的な秩序**:バウハウスが強調した「直線・直角・円」の明快な幾何学。BMW のキドニーグリルや二眼ヘッドライトのシンメトリーは、まさに幾何学的秩序の体现です。

BMW E30 カブリオレの造形美



- **プロポーション**:E30 はコンパクトでバランスのとれた「黄金比的」比率を持ち、特にカブリオレでは水平基調のラインが強調されます。オープントップにより「空」と「走行空間」が直接つながり、バウハウスの「開放性」を造形で表現しているとも解釈できます。
- **直線と曲線の対比**:ボンネットやサイドラインは直線的ですが、フェンダーアーチやヘッドライトには柔らかな曲線が与えられ、幾何学的硬質さと有機的曲線の「調和」が生まれています。
- **人間尺度**:小ぶりのサイズとシンプルな内装は、人間の身体動作に即した設計思想を示し、これはバウハウス家具に通じる「人間工学的合理性」と親和性を持ちます。

BMW 635CSi(E24)の造形美

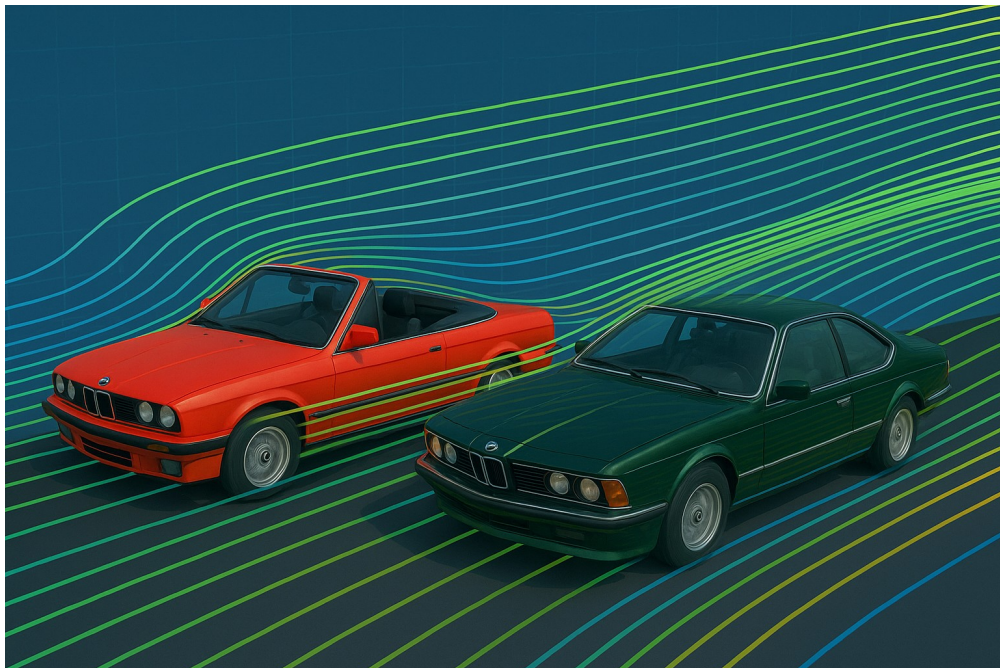


- **エレガントなロングノーズ**: グランドツーリング (GT) カーとして、ロングノーズ + ショートデッキの構成。速度と力強さを象徴するこの比率は、工業デザインにおける「力学的必然性」を美に転化したものといえます。
-
- **シャークノーズ (Shark Nose)**: 前傾したフロントマスクは、空力性能を考慮しながら「攻撃性と躍動感」を造形化。バウハウスの合理性に、戦後西独の工業デザイン特有の「ダイナミズム」が加わっています。
-
- **水平基調のキャラクターライン**: サイドに走る水平ラインは、建築における「水平・垂直」の美学を想起させ、ドイツ建築モダニズムの精神と共鳴しています。

学術的視点からの比較



- E30 カブリオレ: より「機能主義・合理性」に根差した小規模モダンデザイン。都市的で親近感があり、人間生活の延長としての造形美。



- **635CSi**: より「象徴性・表現性」に重点。空力とラグジュアリーを融合し、速度やステータスを具現化する大規模な工業美術品。

→ つまり、E30 は「バウハウスのな純粋合理の小宇宙」、635CSi は「合理性に加えて象徴性を帯びたポスト・バウハウスの造形」と言えるでしょう。

美学的結論



BMW E30 カブリオレと 635CSi は、いずれも「ドイツ工業デザインの美学」を体現しつつ、異なる側面を担っています。

- **E30** バウハウスの「日常生活に根ざした合理美」
- **635CSi** モダニズムを土台にした「表現的・力学的エレガンス」

この二台が並ぶ光景は、単なる旧車趣味ではなく、**20 世紀ドイツ美学史の縮図**を示している、と学術的に説明できます。